

WEBODM MANAGER の起動と実行

それでは、早速 WebODM Manager から WebODM を起動してみましょう。



英語表示ですが、Google Chrome ブラウザであれば日本語訳して表示することが可能です。



WebODM の使い方（簡単に説明）

色々機能が付いているようですが、取りあえずオルソ化からDEMデータの作成までを簡単に説明します。



パラメーターのオプションは色々ありますが、DSM 及び DTM（DEM のことで、周辺の起伏を元に自動で予測 DEM を作成）が必要であれば DSM+DTM を選択、通常はデフォルトで OK。また、画像のサイズ変更は Yes にするとピクセル単位で画像サイズが変更されるようです。

画像のサイズ変更

いや

2048

px



下図の画面が表示されるので、もう一度レビューを押すことで変換が始まります。



下図は実行中の画面です。写真枚数が多いほど時間がかかります。目安としては 100 枚で 20 分程度。パラメーターの設定によっては時間が変わるかと思われます。



終了したら Completed となります。「+」ボタンを押すと詳細が表示されます。

